

# 普及指導員調査研究報告書

課題名：飼料用米新品種の選定と栽培技術の検討

農林総合技術センター農業担い手支援部就農・技術支援室 担当者氏名：小林清敬

## <活動事例の要旨>

本県で飼料用米として利用されている主食用品種「あきだわら」は、いもち病に弱いことから、多収で、いもち病に強い新たな主食用品種の導入が生産者などから求められている。飼料用米として「あきだわら」に替わり利用できる主食用品種の選定に取組み収量性及びいもち病抵抗性の優れた「西海316号（羽1296）」を選定し、その現地適応性を検討した。

### 1 普及活動の課題・目標

飼料用米の主食用品種について、病害抵抗性（いもち病）を持った多収の新品種・系統を選定・導入し、省力・低コスト・安定多収栽培を実現する。

### 2 普及活動の内容

#### (1) 調査研究機関の構成

農林総合技術センター農業技術部土地利用作物研究室、農業担い手支援部就農・技術支援室、農林水産事務所農業部及び畜産部

#### (2) 調査研究期間

令和4年5月～令和4年12月

#### (3) 調査研究の対象地域・場所

岩国市、長門市、美祢市、萩市、防府市（計5か所）

#### (4) 調査研究方法の概要

品種比較のための現地実証試験を実施した。

##### ア 現地実証試験

- ・供試品種系統：「西海316号（羽1296）」、「あきだわら」（対照区）
- ・移植期：5月～7月
- ・栽植密度、施肥量：各地域の標準的水準
- ・調査項目：草丈・茎数、出穂期、成熟期、稈長・穂長・穂数、収量、病害虫の発生程度

### 3 普及活動の成果

#### (1) 現地実証試験（「あきだわら」対比）

##### ア 稈長

稈長は「西海316号」の方が10cm程度長かったが、耐倒伏性は優れていた。

##### イ 収量性

千粒重は、1～2g程度重かった。籾数は同程度～やや多いが、登熟歩合がやや低く、収量性は概ね同等であった。

##### ウ 葉いもち病ほ場抵抗性

いもちの発生は、「西海316号」の方が明らかに少なかった。

(2) まとめ

「あきだわら」に替わる品種の選定に取り組み、「あきだわら」並みの収量性で、いもち病抵抗性及び耐倒伏性の優れた「西海 316 号」を新たな飼料用米品種として選定した。

表 1 現地実証試験成績

試験地	耕種概要			品種・系統	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/nf	穂いもち 0-5	倒伏 0-5	収量				登熟 歩合 %	玄米 タバク %
	移植期 月・日	施肥窒素量										粗玄米 kg/a	精玄米 (>1.25mm) kg/a	千粒重 g	nf粒数 ×100		
		基肥 kg/10a	追肥 kg/10a														
岩国市 (美和町)	5.20	7.0	-	西海316号	8.03	9.12	88	21.7	225	1.0	0.0	49.9	49.1	23.5	282	77.5	6.7
				あきだわら	8.05	9.12	78	20.3	228	1.5	0.0	52.1	51.6	23.0	229	80.7	6.3
長門市 (日置)	6.01	7.5	2.1	西海316号	8.10	9.25	81	21.6	210	0.3	0.0	45.3	44.2	23.4	254	83.3	6.9
				あきだわら	8.12	9.25	72	19.8	252	0.3	0.0	54.3	53.8	22.4	256	95.4	6.6
美祢市 (豊田前)	6.07	9.0	2.2	西海316号	8.09	9.30	101	25.1	238	0.5	0.8	67.4	65.2	24.3	412	72.6	6.8
				あきだわら	8.12	10.01	91	22.2	297	1.5	3.5	68.2	64.4	22.2	409	75.3	7.7
萩市 (佐々並)	6.13	9.0	3.0	西海316号	8.21	10.05	99	23.3	195	0.5	0.3	49.9	48.3	25.5	275	74.7	6.5
				あきだわら	8.20	10.04	85	20.0	206	2.5	4.0	47.9	45.1	22.6	240	75.3	6.8
防府市 (大道)	7.06	10.0	-	西海316号	9.02	10.17	88	20.9	328	0.5	0.0	47.3	46.8	24.1	328	65.2	7.2
				あきだわら	8.31	10.11	76	18.5	333	2.0	2.5	48.8	41.3	22.2	319	63.9	8.0
平均	6.09	1.08	1.02	西海316号	8.15	9.29	91	22.5	239	0.6	0.2	51.9	50.7	24.2	310	74.7	6.8
				あきだわら	8.16	9.28	80	20.1	263	1.6	2.0	54.2	51.3	22.5	291	78.1	7.1

4 今後の普及活動に向けて

「西海316号」は当面本県のみでの栽培となるため、県内関係機関と連携して種子の安定供給に向けた取り組みが必要となる。

また、飼料用米への交付金が令和6年度から段階的に専用品種（多収米）にシフトされるので、「西海316号」が専用品種扱いとなるよう栽培地と調整する。